

2014年 米国土木学会(ASCE)パナマ 100周年記念大会参加報告

2014年10月7日から10日の間、パナマ運河100周年を記念してパナマ共和国パナマ市において、米国土木学会（以下ASCE）年次大会が開催されました。両学会の関係強化および双方の100周年記念事業の成功に向け相互協力をはかるため、土木学会（以下JSCE）からは、磯部雅彦会長、橋本鋼太郎前会長、石井弓夫元会長、大西博文専務理事をはじめ総勢13名が参加しました。



ランディー会長の挨拶

初日の開会式では、ASCEのランディー(Randall S. Over)会長からこの1年間の活動、取組みについて報告がありました。続く基調講演ではパナマ運河庁長官のJorge, L. Quijano氏が、パナマ運河拡張プロジェクトの必要性や概要について講演しました。その後、レセプションが開催され、ASCE大会参加者との懇親が深められました。

また、開会に先立ち、パナマ両洋運河博物館を訪問しました。パナマ運河建設にたずさわった青山士氏（土木学会第23代会長）の特別展示を見学しました。その後のASCEとJSCE二国間ミーティングでは、両学会の最近の取組みなどについて情報交換がなされました。会議では自然災害の調査報告等の、より効率的な情報共有やレポートカード（インフラ健康診断）について意見交換が行われました。



青山士特別展示会場内の様子



ASCE-JSCE Meetingの様子

大会2日目は、青山士氏が携ったガトゥン閘門のあるパナマ運河の大西洋（カリブ海）側から、運河に沿ってペドロ・ミゲル閘門、パナマ市までの約80kmをほぼ1日かけて視察しました。ビジターセンターでは、パナマ運河および拡張事業について説明を受けました。ここからは新閘門拡張現場を眼下に視察することができ、3,300 tの巨大な水門（スライディングゲート）が設置待ちの状態でした。また、ガトゥン閘門では、カリブ海に向けて通過する大型の船舶を見ることができました。



大西洋側新ガトゥン閘門建設工事の様子



大型船舶通過の様子

9日はパナマ運河庁（ACP）を訪問し、Jorge.L.Quijano長官とパナマ運河拡張工事について意見交換をしました。その後、隣接する運河庁の図書館を視察し、所蔵する設計図面や建設時の写真等貴重な資料を拝見することができました。そして最終日の10日には、双方の100周年記念事業への相互協力の一環として、磯部会長が「青山士氏のパナマ運河プロジェクトへの功績」について講演を行いました。講演では、青山士氏のパナマ運河建設における貢献、帰国後、パナマで経験した技術を荒川放水路の建設、大河津分水の補修工事へ活かされことなどが紹介されました。講演後、青山士氏のパナマ運河建設および荒川放水路建設等に関するビデオを上映し、大盛況のうちにセッションは終了しました。そして、次会大会が開催されるニューヨーク市での再会を誓い、記念大会は閉会しました。



磯部会長の講演

【記 国際センター米国 Gr.リーダー 土橋 浩】